

## 【特集2】

# 「学び」のチカラ。

大学で身に付けた高度な専門知識と技能。

それを実社会で発揮するために

欠かせないチカラとは？

大学がそのチカラを育む意義とは？

大学・地域・社会をつなぐ「学び」のチカラについて、

岡野幸雄副学長（教学担当）と

福士秀人教授（教養教育推進センター長）に伺いました。



理事（教学・附属学校担当）・副学長

**岡野 幸雄**

専門分野は生化学・分子生物学。がん研究をテーマに、がん遺伝子オーロラをヒトからクローニングし、DNA修復タンパク質分解を介した細胞増殖の分子機構を解析。昨年3月まで医学系研究科・分子病体学分野教授

教養教育推進センター長

**福士 秀人**

専門分野はウイルス学・偏性細胞内寄生体学。感染症研究をテーマに、新しいウイルスを病気で死亡したトムソングゼルという動物から発見。ウイルスやクラミジアがどのように病気を起こすかを分子レベルから個体レベルで解明中。現在、応用生物科学部獣医微生物学研究室教授。

2012年度より、岐阜大学では5学部のうち3学部において、教養教育の単位数を増やす予定です。

例えば、人文科学系科目では習得すべき最低科目数を増やし、医学部は1科目が2科目に、教育学部と工学部は2科目が3科目になります。

単位数だけではなく、授業の内容も全面的に見直すなど再構築に取り組んでいます。その背景にあるのは、「広い視野を持ち、大学の専門性を社会へと還元できる人材を育成したい」という思い。

そのためには、大学で何をどう学び、どんな自分をめざせばいいのか。卒業後の先を見据えながら、学生が自立的に学び、活動できる教育環境づくりを着実に進めています。

### 学部の垣根を越えて開設した「キャリア形成科目」。

——キャリアセンターと連携で科目立案にあたったという「キャリア形成科目」についてお聞かせください。

福士 「キャリア形成科目」は、2010年度後学期に教養科目の一つとして開設されました。卒業生をはじめ多種多様な企業のトップや最前線で活躍されている方を講師に招き講義を行っています。受講した学生たちは先輩の活躍をじかに聞き、自分の将来像を考えるきっかけになっています。また、講師の方たちからも「自分にとっての大学を見直したい機会になった」「私が学生の時にこういう授業があったら進路が変わっていたかも」といった感想をいただくなど、学問的な面だけでなく人生観や職業観を考える機会になっていると手応えを感じています。

岡野 卒業3年間の離職率が30%と言われている今、人生観や職業観への認識を学生たち

に植えつけることは大学の使命の一つとなっています。大学で身に付けるべき教養を定義することは難しいですが、学生の皆さんには人文・社会・自然など広い視野を持つて欲しいと思います。

福士 幅広い教養を身に付けていると物事を多面的に見ることができ、人生がより豊かに楽しくなります。また「キャリア形成科目」は学部の枠を越えて開講しているため専門外の講義を聴くことができ、自分の立ち位置やなりたい職業が見えてくるという効果もあると思います。

### 「自立と責任」を自覚めさせる学内インターンシップ。

——その他、講義以外でのサポート体制についてはいかがですか？

福士 大学では、講義以外にも学生のキャリア形成をサポートする取り組みを行なっています。その一例が「学生相談員」

です。新入生ガイダンスにおいて、在学生が「学生相談員」としてスタッフに加わったことが始まりでした。ガイダンス終了後も、学生向けのシラバス（履修案内）を学生目線で作るなど自立的に活動を継続しています。中には「学生相談員」を機に大学の事務職に興味を持ち、卒業後採用試験に合格し、実際に岐阜大学に就職した学生もいました。大学内にもインターンシップの機会があるのだという新しい発見がありましたね。

岡野 今後は、大学の広報活動やIT面などでも学生に参加してもらい、大学で培った能力やスキルを発揮できる場を増やせたらと思っています。そして、これを機会に「学生は大学の一員だ」ということを学生も大学側も改めて認識してもらえたらいいですね。

福士 新入生ガイダンスのスタッフには、アルバイト代を支払いました。タダで働くことは違い、お金を貰うからにはそれに値することをしなければ

ならない。つまり「自立と責任」。これを学んで欲しいと思ったからです。最終的には、学生が企画から運営まで全てできるようになるといいですね。

### 大学の専門性を広く社会へ還元するために。

——学生に、ぜひ身につけてほしい「学び」のチカラはなんですか。

岡野 2009年、岐阜大学は経済産業省「社会人基礎力育成・評価プログラム」に採択され、2010年度からは「基盤的能力と専門的能力を自立的に学習する教育」を推進しています。この基盤的能力とは、「考える力」「伝える力」「進める力」のことです。教養教育や専門教育、あるいは課外活動の中で基盤的能力を培い、専門的能力も専門教育や教養教育の中で育むことになります。在学中に培った基盤的能力と専門的能力を総合した力は、社会人になった時にも

必ず役立つチカラです。ぜひ身に付けておいて欲しいですね。福士 卒業して社会に出れば、専門家として一般の方と話す機会も出てきます。たとえば私の場合、鳥インフルエンザや口蹄疫などについて説明する時もあるのですが、専門家相手だったら一言で済むことも一般の方には理解していただけないことがあります。本当の専門家は専門外の方に容易に理解していただけるよう、噛み砕いてわかりやすく説明できないといけない。こういう時に役立つのが幅広い教養なんですね。

大学での4年間は、一生の中でほんのわずかな時間です。大切なのは、大学卒業後の長い人生をどう過ごすか、どう学んでいくかを考えるキッカケを見つけること。そのキッカケとなる「学びへの気づきの場」を提供し、豊かな教養を身に付けた真のプロフェッショナルを社会へ輩出する。「学び」のチカラを社会に還元することも私たちの大切なミッションだと思っています。